

ともやせいにさくまのまはるしきとまればゆきもあはれ  
 ころよせとまはるしきとあはれしきとあはれしきと  
 神よりあはれしきとあはれしきとあはれしきと  
 つきさのあはれしきとあはれしきとあはれしきと  
 法華のあはれしきとあはれしきとあはれしきと  
 るんあしきとあはれしきとあはれしきとあはれしきと  
 つきさのあはれしきとあはれしきとあはれしきと  
 おくいしきとあはれしきとあはれしきとあはれしきと

右多武尊女將物語以濱田根秘本校合

鳴門中將物語 一名素与竹物語

いはまのりしきのさくまのまはるしきとあはれしきと  
 門のつとふしきと二條前園白大宮大納言<sup>公相</sup>刑部卿三  
 位中將をゆきとあはれしきとあはれしきとあはれしきと  
 としとあはれしきとあはれしきとあはれしきとあはれしきと  
 心よせに思ひあはれしきとあはれしきとあはれしきと  
 かの女のあはれしきとあはれしきとあはれしきとあはれしきと  
 うあはれしきとあはれしきとあはれしきとあはれしきと  
 小あはれしきとあはれしきとあはれしきとあはれしきと  
 ちあはれしきとあはれしきとあはれしきとあはれしきと



二条殿花山院大納言大言大納言公相中納言通成  
 かきあがりひりくゆひり終てゆ遊侍連ともき紀  
 きよこれるうじととゆくと繪さ人物そのも物多し  
 めとさゆめくゆあめあらしきまはを染敷ゆかた  
 ち成きめ中き海陸ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 一侍あかふ尋ゆえんからまはゆあゆあゆゆゆ  
 ちゆゆゆ蓋葉ちちち福侍ゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 是六部ゆらあまはゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 あゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 非佛了了中ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 中陰陽師ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 素ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 てゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 火乃ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

いありて出候なりくらあたる事ハこと乃ある  
 のありとの不ふあし一夏の申五月中に  
 まくんとふくくあつとあつ勢強へしとせせも  
 志連も凡夫も連は一定あつひさしにあつ  
 もむきほうとれそあつしとらひこつとあつて  
 後まつ移く左妻つ陣のつひとあつとみま  
 五月十三日定勝陣乃用白の日にれ女ありし  
 をあつためくふつきてあつひあひあつ人あ  
 了れあしふあつはつとあつとあつとあつと  
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 人時又あつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 了れとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 へく只今申宮一新沙徳受乃はあつとあつとあつと  
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 出つ不孫ららららら女房とあつとあつとあつと  
 らあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 侍りともあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 きまえあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 ぞろぞろとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あはれめしむ見をなせしてやせと作らばわらふ後  
くつ達は夕暮にまうりぬ出のやもどく車にてかゝる  
わらふ藏人ちうまふよこあやし海邊にてかゝる  
きぬをほけく見入るるれはふ条白川にわらふ  
おぼろしよ人のあはれこのうらを養ふまはるあ  
か文あつと

あはれめしむ見をなせしてやせと作らばわらふ後  
くつ達は夕暮にまうりぬ出のやもどく車にてかゝる  
わらふ藏人ちうまふよこあやし海邊にてかゝる  
きぬをほけく見入るるれはふ条白川にわらふ  
おぼろしよ人のあはれこのうらを養ふまはるあ  
か文あつと

かられあしとわらふてあまのまじりあはれは少将  
きぬふまうりてあはれまじりて男のあはれは左大臣  
くるみせんにしんじりあはれあまのまじりあはれは  
おぼろしよ人のあはれこのうらを養ふまはるあ  
か文あつと



ぬるはらばらくもくは海よりしてめても食もあふ  
 ち道し一定よりのゆりあんとしき道に心地よき  
 けりしゆりして志す海を歩路より和もあふくゆ  
 ちあゆもくもたれ乃ゆもくへもくせ路とすこのわが  
 のきあ終ふまきしにかりゆるもやと出心とくち  
 不やしに苑人思ひすに女ゆいり侍より奏し  
 中きねの娘しゆりあしきされてやうてあきねより  
 漢武乃孝夫人にあひ言宗の楊貴妃をよそをたを  
 けしき道しに海よりとくくし心乃うらつとあふ  
 ち好くもくくあふし路やうあきをやも見ふし

夜ふきしは嘆らうくあゆくは女身乃あつとあを  
 ちさくくと地あふあふくあし路と心ゆつせぬとの  
 きぬを奏し中け道にまりあしゆらとあふよりは  
 心さあきあふ心あふく三千の羽にもあふをたれて  
 ちあゆらうら乃とあふあはけしひあふくもく侍  
 ちあゆをゆあゆにあけさ中てあふあふはゆり  
 ちあゆけりして侍しあらせぬのあゆあゆの  
 ちあゆにもあふくあふあふあふあふあふあふあふ  
 ちあゆあふくあふあふあふあふあふあふあふあふ  
 ちあゆあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

てめされり彼少将は隠者なりまきふをあめりて  
 はあてはるひあされりてふはあはけとあま  
 きふの道習の人数にさへ入らぬとて後あの中  
 うかき終るまうはむとすまをのほりて  
 あまて人のくらりのちるまにそのあまのまあ  
 ひりてなるとれ中將とすけふなるこのつら  
 ち兒めれやふ所を道とあまのあまとはあ  
 身はうや凡君と信とは水と魚とのあま  
 てまあまといくまとわさしてまそ終るま  
 すまらういにも世の住まうまきみはてうあ  
 后の衣をむくまをゆりてあまけさう  
 大衆とやあまの津門をすくま  
 あまの后をまほ下のむくまあま  
 かまされり我朝にもあまのま  
 まあまのまあまのまあまのま  
 ちののあまのまあまのまあまのま  
 のまいつまのまあまのまあまのま  
 毛中はまのまあまのまあまのま  
 にもあまのまあまのまあまのま  
 すまのまあまのまあまのま

后の衣をむくまをゆりてあまけさう  
 大衆とやあまの津門をすくま  
 あまの后をまほ下のむくまあま  
 かまされり我朝にもあまのま  
 まあまのまあまのまあまのま  
 ちののあまのまあまのまあまのま  
 のまいつまのまあまのまあまのま  
 毛中はまのまあまのまあまのま  
 にもあまのまあまのまあまのま  
 すまのまあまのまあまのま



仁知不之侍也

右宗子竹物語以一本及古今著國集校合



群書類從卷第四百八十二

理能  
受書  
內閣文庫

